

久御山中央公園再整備検討委員会(令和4年度 第3回)

<議事概要>

日時	令和4年 12 月 26 日(月)15:00~17:10
場所	役場1期庁舎4階特別会議室
参加者	別紙の通り

No.	議 事
1	<p>「農家連携イベント」の実施報告 ⇒事務局(久御山町)から説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>久御山町の魅力として農を展開していく取組みは素晴らしい。中央公園だけではなく、中央公園周辺をフィールドとして第6次産業化を進める中で、農家にもメリットがあるように進めていけると良い。</li> <li>この取組みを聞いた感想を教えて欲しい。生産者として今後の取組みの参考とさせていただきたい。</li> <li>久御山野菜のおいしさが魅力だと思う。高品質な野菜を作っているにも関わらず、そのことを知られていないことが課題である。このようなイベントをきっかけに、まずは知ってもらい、そこから地産地消や直売所での売り上げ増加に繋がったり、様々な取組みに広がったりしそうだと感じた。</li> <li>以前、京都山城エリアで「お茶の京都」というイベントを実施したが、久御山町での資源の掘り起こしが難しかった。久御山町を代表するコンテンツとして農業が挙げられるが、対応が大変という理由で農家の方からご協力がいただけない状況だった。今回の「農家連携イベント」で、農家さんがなぜ取組みにご協力いただけたのかが重要。農家さんは職人として、良い品質の野菜を作ることに長けているが、それに付加価値を付けて高く売るという意識が薄いと感じる。このようなイベントを通じて、直売所の野菜の売り上げが伸びる等になると良い。「お茶の京都」で苦戦した原因は、申し込みをバラバラに受け付けた結果、各農家が個別に対応をしなければならなくなったからである。10人~20人の申し込みを旅行会社の方でまとめて受付をしないと難しい。</li> <li>以前シェフを呼んだイベントを実施されていた。単価を上げてビジネスとして上手く回しながら、久御山町の魅力向上に繋がると良い。</li> <li>久御山野菜を魅力だととらえていない生産者が多い。お客様が何に喜んで、何に対価を払うのかを、生産者が把握する必要がある。お客さんと繋がって、喜んでくれていることを感じることで、農家自身のモチベーションも上がり、次の取組みに繋がると思う。旅行会社等とのマッチングが上手くできると良い。</li> </ul>
2	<p>再整備基本計画素案について ⇒事務局から説明</p>
3	<p>意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4章は利活用のイメージ、シーンを書いているが、全てが必ずしも実現しなければならないわけでは</li> </ul>

No.	議 事
	<p>い。一方、5章は民間から提案いただく際の条件となるため、幅を持たせた書き方としている。この場では4章5章まとめてお考えを自由にご発言いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1点目は、今回のカギは荒見苑のあり方だと考えている。荒見苑をどう活用するのか、どう変化させるのかが重要だ。荒見苑は中央公園の管理棟としての位置づけを強く持たせるべきだと考えている。現在は、高齢者を中心に利用されているが、今後のことを考えると、見直す必要があると思う。建物の耐用年数から見ても、この機会が見直しに適切だ。2点目は、完全な公園を作るのではなく、自由度の高い公園とすることに共感する。調整池等、必要な機能はきちんと整備する必要があるが、時代の変化にともなうニーズの変化に対応できるような自由度の高さは必要だ。アンケート結果についても時代によって変化すると思う。3点目は、まちづくりセンターを中心として「うちにわ」、中央公園を中心として「そとにわ」との位置付けに賛同する。うちにわ・そとにわの関連性を総合的に検討するべきだと思う。個々の検討とならないように注意すべき。</li> <li>• 荒見苑については引き続きの検討事項となる。飲食機能を持たせたいということに記載しており、飲食機能を整備しようとする、荒見苑を活用することが現実的となる。どのタイミングでどこまで書かかを調整する必要がある。できる限り書けることは書いたほうが良いというご意見だったので、検討する。</li> <li>• まちづくりセンターや木津川河川敷運動広場までのルートを含め、「歩くまち」として中央公園を中心とした歩道の整備が大切。中央公園があらゆる活動の拠点となると良い。トイレ等の設備がきちんと整備されていると、安心できて、訪れるきっかけや、長く滞在する理由となると思う。</li> <li>• 久御山中央公園の周辺についてももう少し言及したほうが良い。</li> <li>• 当初公園内で農業体験等を展開するという話だったが、「歩くまち」との関連も考え、久御山中央公園を農業体験の起点として使う方が良いと感じた。ただ、農業との繋がりを無理に作らなくても良いと思う。人が常駐する必要性を考えるとクロスピアを活用の方が現実的では。また、限られた駐車場に車を止め、公園以外のところに行くのが良いのか、全てを公園に盛り込むのが良いのか等も考える必要がある。</li> <li>• 公園は不特定多数の人が使うため、一つの目的のために集まるのではなく、偶然の出会いが生じる場所となると良い。オール久御山でとらえ、どこで何をするのか考えられると良い。</li> <li>• 4-3 ページ、4-4 ページに「人工芝」とあるが、現在の中央公園のグラウンドは人工芝ではない。何を基に「人工芝」が出てきたのか。</li> <li>• ここは、アンケート等を基に、「例えば将来こうなると良いな」というイメージを書いた部分であり、現在の使われ方を記述している部分ではない。(事務局)</li> <li>• 久御山町はコンパクトな町であるため、同じ用途の施設をいくつも整備する必要はない。クロスピアに野菜の直売所があるが、中央公園にも直売所の機能が必要なのか。マルシェやコンサートも他の施設でもできる。多目的でいろいろなことができるのも良いが、まちづくりセンター、クロスピアとの使い分けを整理し、中央公園の役割をある程度絞った方が良いのではないか。</li> <li>• 一つの目的のためだけに留まらず、何かのついでに寄って、新しい活動に繋げるというのが最近のトレ</li> </ul>

No.	議 事
	<p>ンドでもある。そのようなことが起こる仕掛けづくりが重要であると考えてるので、いかに用途をミックスして出会いを作っていけるのかも大切と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• クロスピアは、交通のジャンクションであることや、農業ともものづくりの交点、人と人との交わり等、多くの交わりを意味している。中央公園でも同じようなことを言っているため、重複している。「交わり」を生むためにいかに実効性のあるプログラムを展開するかが重要である。</li> <li>• クロスピアの直売所では拾いきれない層に、中央公園でのイベントでアプローチする等できると良い。</li> <li>• イベントを実施する際に役場が主体となっていることに違和感がある。歩くまちのイベントも、役場主体となっている。4-5 ページに鳥の解説板とあるが、そこに直売所の案内マップを置く等、縦割りではなく柔軟な発想で考えたい。役場は町民主体の活動を活性化するきっかけ・仕掛けを作ってほしい。役場主体では、継続ができない。なんでも役場がやってくれるという意識を変えていかなければならない。</li> <li>• 役場主体から事業者主体への転換が必要。いかに担い手が育つような仕掛けを作っていけるかが重要であるため、引き続き検討していく。</li> <li>• 他市で働いているが、久御山町の野菜がおいしいという話が出るが、どこに売っているのかが分からない。クロスピアはいつでもあらゆる品種が揃っているわけではない。行っても何が売っているか分からないと、行こうと思えないため、どこに何が売ってあるのか、情報発信されていると嬉しい。楽器の練習をするときに、木津川運動公園(城陽五里五里の丘)を利用するが、今の中央公園では練習しに行こうと思えない。木津川運動公園は原っぱが広がっていて、たくさんの人が座れる場所や木陰もある。ベンチはみんなで話せるものや、一人でゆっくりできるようなものがあるとよい。今の中央公園で楽器を練習している姿をイメージできないので、素敵な草木があって、ついでに野菜も買って帰るような公園となれば嬉しい。公園の使い方については、多様性にあふれるが、作りこみすぎない場所になると良い。</li> <li>• 旬の情報発信をしながら、各地で販売されている野菜を発信できる。ソフト戦略とハード戦略の組合せは面白いと思った。</li> <li>• 同じ用途のものを作る必要がないということに共感する。一方で、クロスピアは車が多い場所であるため、自転車等では行きにくい。そこで、クロスピアに行くための呼び水として、中央公園で農業の雰囲気漂っていると良いと思う。今回のポイントは「アクティビティファースト」ではあるが、そのための施設が必要なのではなく、色々なことが自由に出来る雰囲気を醸し出すことだと思う。今の中央公園はゾーニングされすぎているため、それ以外の用途では使いづらい状況になっている。どんなアクティビティを誰を対象に考えるかが重要。農業体験をするなら、日の照る暑い時間帯ではなく、朝露が降りる時間帯が適切なのではないか。野菜は口に入れるものなので、生産者の顔が見れることも安全安心に繋がり、魅力である。</li> <li>• 主婦目線で見ると、野球やサッカーをしたり、荒見苑を利用したりするわけではないので、現在の中央公園には行く理由がない。新鮮な野菜が中央公園で売っていたら、立ち寄る理由になる。各地の道の駅が話題となっているが、道の駅のような機能があれば、毎日でも行くと思うし、もっと人を呼び</li> </ul>

No.	議 事
	<p>込めるようになるし、スポーツの観戦に来ている保護者も立ち寄ると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートからも来訪頻度が少ない原因に用事がないため来訪しないことが分かっている。機能を増やすべきなのか、心地の良い空間が必要なのか、検討を続けていきたい。</li> <li>初見で計画を見たときに、第1章の関連計画の相関関係が分かりづらい。「まちのにわ」構想、CCAC 構想、歩くまち「くみやま」推進事業、総合計画とある。1-6 ページに「中央公園に野菜やハーブなどを育てる「エディブルガーデン」を作り、これを菜園教育や食育」とあるが、本日の話からすると中央公園周辺の農地を指すのだと思う。全てを書く必要はないが、上手く理解できるように、上位計画や関連計画の内、重要な部分はどこなのか、中央公園に求められるものが何なのか整理する必要がある。第2章住民等のニーズの中に「再整備検討委員会における主な意見」があるのは違和感がある。どちらかと言うと、住民ニーズと第3章の近年の公園ニーズの方が相性が良い。そういうものを受けてこの再整備検討委員会で議論した結果なので、第3章の次に出した方が良いかもしれない。若しくは、ここに書いてある意見が計画の中に組み込まれており、特にコンセプトや整備の方向性に反映された計画として策定されれば、無くしても良いかもしれない。第4章のコンセプト「久御山マチニワパーク」の説明、回収が必要。説明文の最後が「活力を育む「畑」となっているが、「マチニワパーク」が何なのか説明がないと「畑」と「マチニワ」がつかない。「うちにわ」「そとにわ」のレトリックでいくのであれば、「マチニワパーク」でもよいし、どこにも回収されていないので説明が必要。コンセプトの説明文中の言葉では、「活動」と「体験」、「出会い」と「発見」の相性が良い。「交流」や「展開」が足りていない。野菜の成長のイメージを、「活動」「出会い」「発見」「体験」で示せると良い。公園に来て、出会って(もしくは発見して)、何か活動を始めて、地域の人との交流に繋がって、町に広がっていくという順番、または、何か活動や体験をしに来て、他の活動や体験に出会って、新しい交流や出会いが生まれ、それが町全体に広がるという展開かもしれない。プロセスを明確にして、そのプロセスをコンセプトで説明できると良い。野菜のイメージを「種まき期」「育成期」「収穫期」とすると、最後の「収穫期」に初めて公園に来た人が参加できないようなプロセスになると、後になるほど入りづらくなるので、どのプロセスからでも誰でも参加できるような説明が欲しい。再整備に当たっての基本的な考え方の主語は「利用者」が良いと思う。「利用者が」「拠点となる」は不自然なので、「利用者が拠点としたくなる」等良い表現が適切。普通の公園の計画だと、再整備に当たっての基本的な考え方の後に必要な機能の整理が来るが、今回はアクティビティファーストということで、仮想の人物で活動内容を整理をするペルソナが掲載されている。単純に公園の機能を並べた計画ではないのは良いと思う。一方で、ケースが架空の想定であるため、本当に必要なのはこれらを実現するための仕組みの記述が重要となるが、次の章では空間の話となっているので、第5章を5.1 ハード、5.2 仕組みとしても良いし、第4章で仕組みの話をして良いが、どちらかでアクティビティを育てる仕組みを書かなければならない。第5章が事業計画の要件に入るのであれば、新しい事業者にも仕組みやプラットフォームづくりを手伝っていただいて、運営にも参画して欲しい。第5章には新しい活動を生み出すプラットフォームを官民が連携して作っていくのが記載されていないといけないのでは。すぐにできなくともプロセスを経て時間をかけて育てていくような説明ができると良い。第5章の(1)～(11)はもう少し構</li> </ul>

No.	議 事
	<p>造化が出来ると思う。公園全体のゾーン間の考え方の話、各ゾーン内の空間構成の話、サーキュレーションの話、具体的な設備の話等に分けられるのではないか。イメージ図は空間がどのような機能を持ち得るのかの対応図にしたほうが良い。例えば、グラウンドではどのようなアクティビティができるのかを示す。ペルソナでは人単位であるため、それをばらして場所単位で組みなおした方が良い。ただ、現在のゾーニング案は、ほとんど現状と変わっていないので、これを平面図に落とし込んだ方が良いかは検討の必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民間事業者が事業提案する際に基本計画をベースにして提案することになる。この基本計画を見た時に、民間事業者は少し戸惑うと思う。イメージは理解できるが、記載事項の重みづけ、必要性が分かりづらい。必須事項なのか、そうでないのか分かりやすくしたほうが良い。各エリアの細かい面積までは不要だが、ある程度の規模等が分かると良い。人工芝とするのか、荒見苑の活用をどうするのか、ゲートボール場・多目的広場はどうするのか等、それぞれに対して、基本的な事項を補足したほうが悩まなくて良い。確定事項なのか、確定ではないがアクティビティとして想定しているのか、難しいところではあるが、どこまで書くか検討する必要がある。今の書き方だと、民間事業者の提案にかなりばらつきが生じそう。ニュアンスを読み取れなかったため違った方向となってしまう、評価が下がってしまうようなことにならないようにしたほうが良い。機能として全て押さえるとガチガチになるが、押さえるべき事項は押さえて提案の熟度が揃うような内容とした方が良い。運営の方向性が分からない。どのようなプログラムをどの程度想定するのか、そのプログラムに対応する育て方のプロセスや狙いを明確に書いておくことが重要。あまり書きすぎて提案の余地が無くなることは良くないが、良い塩梅で表現していただきたい。将来の維持管理運営の理想像の目線合わせができるような記載が欲しい。先ほど話になったアクティビティマップのようなものも、表現が難しいが、あまりカチツとしたゾーニングにならないように留意しながら、分かりやすくまとめられると良い。基本計画内では詳細に書かずに、今後の要求水準書等で示すという考え方もあるが、基本計画の中で現時点で書けることは書いたほうが、今後様々な合意形成を図る上でやりやすくなると思う。</li> <li>町としては、クロスピアは「産業・交流」、まちづくりセンターは「文化・交流」、中央公園は「スポーツ・交流」として機能の棲み分けをしている。その上で、うちにわ・そとにわとして位置付ける。(副町長)</li> </ul>
4	<p>企業へのプレサウンディングの結果について ⇒事務局から説明</p>
5	<p>その他 ⇒事務局(久御山町)から説明</p>

以 上